

岐阜県地域公共交通等燃料価格高騰対策支援金交付要綱

令和4年7月25日制定

令和4年10月18日一部改正

令和5年6月19日一部改正

令和5年12月26日一部改正

令和6年7月16日一部改正

令和7年1月31日一部改正

令和7年7月17日一部改正

令和8年1月13日一部改正

(総則)

第1条 県は、燃料価格及び物価の高騰の影響を受けながらも、県民生活及び経済活動を支える重要なインフラとして運行を継続している地域公共交通事業者等に対し、予算の範囲内で支援金を交付するものとし、その交付に関しては、この要綱の定めるところによる。

(対象事業者)

第2条 支援金の交付の対象となる事業者（以下「対象事業者」という。）は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1) 次のいずれかに該当する者であること。

ア 樽見鉄道株式会社、明知鉄道株式会社、長良川鉄道株式会社又は養老鉄道株式会社（以下「地方鉄道事業者」という。）

イ 岐阜乗合自動車株式会社、濃飛乗合自動車株式会社、東濃鉄道株式会社、名阪近鉄バス株式会社、北恵那交通株式会社又は株式会社白鳥交通（以下「広域バス路線事業者」という。）

ウ 県内に営業所を有する道路運送法（昭和26年法律第183号）第3条第1号ハに規定する一般乗用旅客自動車運送事業を行う個人又は法人（以下「タクシー事業者」という。）

エ 県内に営業所を有する自動車運転代行業の業務の適正化に関する法律（平成13年法律第57号。以下「運転代行業適正化法」という。）第2条第2項に規定する自動車運転代行業者（以下「自動車運転代行業者」という。）

(2) 令和8年1月13日時点で事業を営んでおり、かつ、同日後も事業を継続する意思があること（自動車運転代行業者にあつては、これらに加えて、同日時点で運転代行業適正化法第4条の認定を受けていること）。

(欠格事由)

第3条 前条の規定にかかわらず、次に掲げる者は、対象事業者となることができない。

- (1) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。次号において「暴対法」という。）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）
- (2) 暴力団員（暴対法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）
- (3) 役員等（法人にあっては役員及び使用人（支配人、本店長、支店長その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、営業所の業務を統括する者（営業所の業務を統括する権限を代行し得る地位にある者を含む。）をいう。以下同じ。）を、法人以外の団体にあっては代表者、理事その他法人における役員及び使用人と同等の責任を有する者を、個人にあってはその者及びその使用人をいう。以下同じ。）が暴力団員であるなど、暴力団がその経営又は運営に実質的に関与している個人又は法人その他の団体（以下この条において「法人等」という。）
- (4) 役員等が、暴力団員であることを知りながらこれを使用し、又は雇用している個人又は法人等
- (5) 役員等が、その属する法人等若しくは第三者の不正な利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員等（暴力団員又は暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者をいう。以下同じ。）を利用している個人又は法人等
- (6) 役員等が、暴力団又は暴力団員等に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなど、直接的又は積極的に暴力団の維持運営に協力し、又は関与している個人又は法人等
- (7) 役員等が、その理由を問わず、暴力団又は暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有している個人又は法人等
- (8) 役員等が、暴力団又は暴力団員がその経営又は運営に実質的に関与している者であることを知りながら、下請契約、業務の再委託契約、資材等の購入契約等を締結し、これを利用している個人又は法人等

(支援金の額)

第4条 支援金の額は、次の各号に掲げる事業者の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

- (1) 地方鉄道事業者 次のア又はイに掲げる鉄道の動力の区分に応じ、それぞれア又はイに定める額（当該地方鉄道事業者の路線が複数の県に跨る場合にあつては、その額に岐阜県内における営業キロ数を全営業キロ数で除して得た割合を乗じて得た額）（当該額に千円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額）
 - ア 軽油 19.0円/Lに、当該地方鉄道事業者の令和2年度における動力使用量（以下「令和2年度動力使用量」という。）の12分の7

を乗じて得た額

イ 電気 4.3円/kWhに、令和2年度動力使用量の4分の1を乗じて得た額

(2) 広域バス路線事業者 当該広域バス路線事業者が岐阜県バス運行対策費補助金交付要綱(平成13年9月10日制定)第4条に規定する補助対象系統に供するために保有する乗合バス車両1台につき131千円。ただし、保有する乗合バス車両の台数は、令和5年10月1日から令和6年9月30日までの期間における1補助対象系統当たりの実車走行キロが次のアからウまでに掲げる区分に応じ、それぞれアからウまでに定める台数を合計した台数と令和8年1月13日時点で事業者が保有する乗合バス車両の台数とを比較し、いずれか少ない方とする。

ア 50,000キロメートル未満の場合 2台

イ 50,000キロメートル以上180,000キロメートル未満の場合 4台

ウ 180,000キロメートル以上の場合 6台

(3) タクシー事業者 令和8年1月13日時点で、県内の営業所において当該タクシー事業者が行う事業に供するために保有するタクシー車両(燃料にLPGを使用するものを除く。)1台につき20千円

(4) 自動車運転代行業者 令和8年1月13日時点で、県内の営業所において当該自動車運転代行業者が行う自動車運転代行業に供するために保有する随伴用自動車(運転代行業適正化法第2条第7項に規定するものをいう。)1台につき20千円

(支援金の交付の申請)

第5条 支援金の交付を受けようとする対象事業者は、別記様式1による申請書兼誓約書に当該申請書兼誓約書において定める書類を添えて、これを令和8年2月16日までに知事に申請しなければならない。

(支援金の交付決定等)

第6条 知事は、前条の規定による申請があったときは、当該申請の内容を審査し、支援金の交付の可否を決定するものとする。

2 知事は、支援金の交付の決定をしたときは、別記様式2により当該申請した者に通知するものとする。

3 知事は、支援金の不交付の決定をしたときは、別記様式3により当該申請した者に通知するものとする。

(支援金の交付)

第7条 知事は、前条第2項の規定による通知を受けた者に対し、支援金を交付するものとする。

(決定の取消し)

第8条 知事は、対象事業者が法令等若しくはこれに基づく知事の処分若しくはこの要綱に違反したとき、又は第5条の規定による申請の際虚偽の誓約をしたときは、交付の決定を取り消すことができる。

(支援金の返還)

第9条 知事は、支援金の交付の決定を取り消した場合において、既に支援金が交付されているときは、期限を定めて、その返還を命ずるものとする。

(暴力団の排除)

第10条 第5条の規定による申請があった場合において、当該申請をした者が第3条の規定に該当するときは、知事は、その者に対して支援金の交付をしないものとする。

2 知事は、第6条第1項の規定による交付の決定をした後において、当該交付の決定を受けた者が第3条の規定に該当することが明らかになったときは、第8条の規定により支援金の交付の決定を取り消すものとする。

3 前項の場合において、既に支援金が交付されているときは、知事は、前条の規定により、期限を定めて、返還を命ずるものとする。

(加算金及び延滞金)

第11条 対象事業者は、第9条の規定により支援金の返還を命ぜられたときは、その命令に係る支援金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該支援金の額（その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納付額を控除した額）につき年10.95パーセントの割合で計算した加算金を県に納付しなければならない。

2 前項の規定により加算金を納付しなければならない場合において、対象事業者の納付した金額が返還を命ぜられた支援金の額に達するまでは、その納付金額は、まず当該返還を命ぜられた支援金の額に充てられたものとする。

3 対象事業者は、支援金の返還を命ぜられ、これを納期日までに納付しなかったときは、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額につき年10.95パーセントの割合で計算した延滞金を県に納付しなければならない。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、支援金に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年度分の予算に係る支援金に適用する。

附 則

この要綱は、令和５年度分の予算に係る支援金に適用する。

附 則

この要綱は、令和６年度分の予算に係る支援金に適用する。

附 則

この要綱は、令和６年度分の予算に係る支援金に適用する。ただし、令和６年８月３１日以前に第５条の規定による申請が行われた支援金については、なお従前の例による。

附 則

この要綱は、令和７年度分の予算に係る支援金に適用する。

附 則

この要綱は、令和７年度分の予算に係る支援金に適用する。ただし、令和７年８月１５日以前に第５条の規定による申請が行われた支援金については、なお従前の例による。